

上映スケジュール

12月5日(土) 10:00 - 長編① 12:00 - 短編①

14:00 - 特別 16:20 - 短編②

12月6日(日) 10:00 - 短編③ 12:00 - 短編④

14:00 - 短編⑤ 16:00 - 長編②

12月7日(月) 10:00 - 長編③ 12:00 - 特集①

14:00 - 短編⑥ 16:00 - 長編④

12月8日(火) 10:00 - 短編⑦ 12:00 - 短編⑧

14:00 - 長編⑤ 16:00 - 長編⑥

12月9日(水) 10:00 - 長編⑦ 12:20 - 短編⑨

14:20 - 特集② 16:40 - 短編⑩

12月10日(木) 10:00 - 長編⑧ 12:55 - 長編⑨

14:30 - 短編⑪ 16:20 - 特集③

12月11日(金) 10:00 - 長編⑩ 11:40 - 特集④

13:30 - 特集⑤ 15:30 - 特集⑥

15:30 の回上映終了後 各賞授賞式

*各回、監督による舞台あいさつを予定。決定次第、映画祭のサイトや SNS で発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

公式 HP : tdff-neoneo.com

twitter : @TDFF_neoneo

Instagram : [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo/)

FB : <https://www.facebook.com/tdff.neoneo/>

主催 : neoneo 編集室

お問い合わせメール : tdff.neoneo@gmail.com

【前売】

1 回券 = 1,300 円

3 回券 = 3,300 円 (期間中も販売)

新宿 K's Cinema にて発売中！

【当日】

1,500 円均一

(小、中、シニア 1,000 円)

特集 映像の民族誌

カムイチェブ
サケ漁と先住権

12.7(月)
12:00-

監督＝藤野知明 / 2020 年 / 93 分

カナルター
螺旋状の夢

12.9(水)
14:20-

監督＝太田光海 / 2020 年 / 120 分

からむしのこえ

12.10(木)
16:20-

監督＝分藤大真 / 2019 年 / 91 分

人類学者たちの
フィールド

12.11(金)
11:40-

『アッパ・オリの一日』 監督＝松村圭一郎 / 2020 年 / 36 分
『プティー・ジャライ族の墓放棄祭』 監督＝柳沢英輔、ウィンチェンツォ・デッラ・ラッタ / 2014 年 / 47 分

ヴィジュアル・フオーク
ロアの世界

12.11(金)
13:30-

『デヴォーキ〜神に捧げられた女たち〜』 監督＝弘理子 / 2019 年 / 76 分
『説経浄瑠璃 三代目・若松若太夫 一声二節のわざ』 監督＝遠藤協 / 2020 年 / 17 分

ゾミアの秘祭

12.11(金)
15:30-

『ナガのドラム』 監督＝井口寛 / 2019 年 / 66 分
『アルナチャール人類博覧会』 監督＝金子道 / 2020 年 / 15 分

かつてアイヌは自由に鮭をとり主食にしていたが、明治以降は政府に規制されてきた。紋別アイヌの畠山さんは伝統儀礼カムイチェブノミをするため、北海道の行政に無許可で川の鮭を捕ろうとする。役人と警察が思い止まらせようと揉みあうが、彼の意志はかく、各地のアイヌも支援に駆けつけて…。ひとり先住民の権利のために闘う畠山さんの姿に、心を動かされずにいられない。

セバスティアンとその家族は、エクアドルのアマゾン熱帯雨林に暮らすシュアール族。口噛み酒を飲み交わし、森で狩猟採集し、薬草や覚醒植物がもたらすヴィジョンや夢を通じて世界を理解しようとする。監督は1年以上にわたるフィールドワークで家族と親密な関係を築き、セバスティアンから伝統的实践を教わるなかで、シュアール族が直面する現代的な試練を知るようになる。

奥会津の昭和村では、豊かな自然のなかで「からむし」という植物を育て、繊維をとって糸にし、布を織る営みが数百年ほど受け継がれている。それは新潟県に出荷され、上質な布として越後上布や小千谷縮の材料となる。カメルーンやボルネオで研究してきた映像人類学者が、美しい映像でからむし織の工程をつづり、携わる人びとの情感豊かな声に耳を澄ませていく、静かなる傑作。

『うしろめたさの人類学』の著者である文化人類学者・松村圭一郎が、20年以上通うエチオピアの農村を撮った『アッパ・オリの一日』。足を悪くした村の長老が、サルや虫や子どもたちに囲まれて過ごす「老いの風景」を映しだす。『プティー』は、ヴェトナム中部高原のジャライ族が、夜通しで水牛の供犠、ゴングの演奏、精霊の踊りをおこなう祭礼を記録した稀少な民族誌映像。

『デヴォーキ』は、ヒマラヤ山麓のヒンドゥー教徒がさまざまな祈願の代償に、幼い少女を「神の嫁」として寺院に捧げる奇習を取材。世俗的な結婚が許されず、寺院娼婦など数奇な生を送る女性の姿を描き、ネパール社会のタブーに切りこむ。『廻り神楽』の監督が三味線の弾き語りの世界に迫る『説経浄瑠璃 三代目・若松若太夫』を併映。北村皆雄が率いる映像民俗学の拠点の、次世代作家たちを特集する。

インドとミャンマーにまたがる山岳地帯に暮らし、独特の歌唱法や華美な民族衣裳で知られるナガ族。彼らが森で巨木を切り倒して成形し、引き綱で運び、ドラムの完成を祝した祭りをする様子を撮った『ナガのドラム』。中印の国境紛争地帯で、インド観光局がナガ族やモンパ族を集めた文化フェスティバルを催すが、そこに21世紀的な人間動物園のあり方を見る『アルナチャール人類博覧会』を併映。

映画祭運営：金子遼 佐藤寛朗 澤山恵次 若林良 吉田悠樹彦 柴垣萌子 中村陽奈 バブリシティ・大久保渉 メインヴィジュアルデザイン：高野 尚 WEB デザイン：古谷里美 レイアウト：菊井崇史

12/5 (土)

12/11 (金)

公開決定！

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿道コモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・整理券制

ルミネエスト

ビックロ

ライオン 4℃

ホテル

大塚家具

FLAGS

K's cinema

●DOCOMO

JR 新宿駅 東南口

甲州街道

東京都新宿区新宿 3 丁目 35 - 13

JR 新宿駅 東南口 徒歩 3 分 東口 徒歩 5 分

●各回定員入れ替え制●上映開始後のご入場は、お断りさせて頂く場合がございます●満席の場合は入場をお断りさせて頂く場合がございます●作品により画像、音声が必要しも良好でない場合がございます。あらかじめご了承下さい。

西

北

東京ドキュメンタリー映画祭 2020

2020

激動の時代に対峙するドキュメンタリーが集結！

過去最大、50 本以上の長編・短編を上映します

コンペティションの他、みんなが選ぶ「観客賞」も開催

長編コンペティション審査員
綿井健陽 / 矢田部吉彦

短編コンペティション審査員
代島治彦 / 川井田博幸

南

東

TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

ARTS COUNCIL TOKYO

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

新型コロナの影響で劇場が閉まり、映画祭の開催も危ぶまれましたが、3年目にして過去最高 150 本以上の応募がありました。上映作品は、戦争、オリンピック、原発事故、先住民の権利、摂食障害などテーマが多岐にわたります。撮影方法もセルフ・ドキュメンタリーからダイレクト・シネマまで様々です。特別上映では香港における民主主義の危機を、特集上映では東南アジア、南米、アフリカなどの民族誌映像を取りあげます。パンデミックによる経験したことのない激動の時代に、多様なドキュメンタリーが撮り続けられていて、映画館で上映できること自体が喜びです。記憶に残る1年の終わりに、ぜひ新作の数々をご覧ください。 金子 遊（「東京ドキュメンタリー映画祭」プログラム・ディレクター）	傍観者あるいは偶然のテロリスト 長編 ⑦ 12.9(水) 10:00-  監督＝後藤和夫／2020 年／118 分 私はおぼえている 長編 ⑧ 12.10(木) 10:00-  監督＝渡田野州平／2020 年／160 分 「現時点プロジェクト」は、市井の人々の生活史を映像で記録する試みで、鳥取県内の高齢者を対象に、人生を振り返ってもらうオーラル・ヒストリーを記録してきた。そうして記録された8人の語りが編集され、映画という形になったのが本作だ。家族との思い出や土地に根差した暮らし方、そして戦争体験といったそれぞれの個人的な記憶が結びつき、いつしか土地の記憶、さらに大きな歴史の物語への広がりを感じられてくる。	日本発ダイレクトシネマ 短編 ⑤ 12.6(日) 14:00-  「伊」 監督＝荒木悠／2019 年／16 分 「有酸素ナンパ」 監督＝トモシ／2019 年／31 分 「想像」 監督＝太田信吾／2020 年／54 分 障がいと表現、生の軌跡 短編 ⑥ 12.7(月) 14:00-  「ベジタブル・バスケット」 監督＝巖間登志美／2020 年／7 分 「ハンセン病を生きて」 監督＝高山穂子／2020 年／25 分 「ピアノが私にくれたもの」 監督＝佐々木健平／2019 年／66 分 出産体験の実話を映像化したドキュメンタリーアニメーション「Birth」シリーズの第3弾。70代のアニメーション作家一色あづるの半生を描いた「いい子いい子、赤ちゃん」、若見ありさの「山の向こうで子どもが産まれた」、川崎枝花の「私なり、母親の作り方」の3本を上映。一方、朴基浩の「LOOKING FOR THAT- アレを探して-」は、総勢15名のインタビューを通して、月に一度の「アレ」＝「生理」に正面から迫る異色のドキュメンタリー。
長編 ① 12.5(土) 10:00-  監督＝青山真也／2020 年／88 分	大月語 おのづかに 長編 ⑨ 12.10(木) 12:55-  監督＝濱田公望／2020 年／78 分 四国西端で移ろう四季の風景や刻々と変わる海の表情に、言い伝えや祭礼、開拓民の歴史や越境する若者を重ね、さらには、ダンサーや音楽家を近未来から招き、言葉にならない土地の「語（り）」を探す。ウイルスにより人々との繋がりが危機にさらされる今だが、この土地はそうした流れから捨て置かれたのではないか。そのようにも感じられる大月町の「地底から遠未来」を、無作為にダイブするタイムマシンの感覚で捉えていく映像詩的作品。	いのちの神秘、からだの不思議 短編 ⑦ 12.8(火) 10:00-  「Birth-めくるいのち-」 監督＝一色あづる、川崎枝花、若見ありさ／2020 年／27 分 「LOOKING FOR THAT-アレを探して-」 監督＝朴基浩／2020 年／63 分 出産体験の実話を映像化したドキュメンタリーアニメーション「Birth」シリーズの第3弾。70代のアニメーション作家一色あづるの半生を描いた「いい子いい子、赤ちゃん」、若見ありさの「山の向こうで子どもが産まれた」、川崎枝花の「私なり、母親の作り方」の3本を上映。一方、朴基浩の「LOOKING FOR THAT- アレを探して-」は、総勢15名のインタビューを通して、月に一度の「アレ」＝「生理」に正面から迫る異色のドキュメンタリー。
長編 ② 12.6(日) 16:00-  監督＝原將人／2019 年／80 分	白根紙鳶見聞録 風ノ国 とねのけのぼけなみんぐ 長編 ⑩ 12.11(金) 10:00-  監督＝梨本 晴鳴／2020 年／74 分 新潟県新潟市南区には、300年の歴史をもつ白根大風合戦が存在し、毎年6月に5日間にわたって開催される。この地域における「風揚げ」は単なる祭りに留まらず、地域の繋がりを再認識する貴重な機会でもあった。各組の人々が1年間をかけ、素材集めから製作まで自分たちで行い、合戦までを待つ。その様子、ひいては地域に暮らす人たちの生きざまや繋がりの強さ、自然の魅力を3年間に渡って記録した、丹念な取材が光る好篇。	家族ドキュメント 短編 ⑧ 12.8(火) 12:00-  「二ヵ月」 監督＝渡田野州平／2020 年／9 分 「Bye Bye Daddy」 監督＝松永圭以／2016 年／10 分 「Queen Hisako」 監督＝松永圭以／2018 年／20 分 「アロポーズ」 監督＝familia familiar／2020 年／54 分 「身内にカメラを向ける」とは、どういう行為なのだろうか？ コロナ禍の日常で気づいた「家族の風景」にカメラを回した渡田野州平の「二ヵ月」。夫の死に持論を述べる母の姿と、チャッカカリの江戸っ子である祖母の豪放なキャラクターをとらえた松永圭以の「Bye Bye Daddy」『Queen Hisako』。不倫により精神的に壊れていく自分にカメラを向ける妻と、それを映画化しようとする夫を当事者目線で描いた実録家族ドキュメント『プロポーズ』を上映。
長編 ③ 12.7(月) 10:00-  監督＝岡崎まゆみ／2019 年／102 分	日本とアジア、民主主義の問い 短編 ① 12.5(土) 12:00-  「パンク・セーブ・ザ・クイーン」 監督＝久保田豊／2019 年／20 分 「東京 2018 プノンペン」 監督＝歌川達人／2020 年／32 分 「ヤジと民主主義」 監督＝長澤地／2020 年／46 分 民族紛争を抱え少数者の権利が制限されるミャンマーで、音楽を通じ人々の心を繋げようとするミュージシャンを追った『パンク・セーブ・ザ・クイーン』。東京とプノンペンで、街ゆく人に同じ質問を投げかけ、「愛」や「幸せ」など普遍的価値を問う『東京 2018 プノンペン』。そして札幌で、安倍前首相の演説中に声をあげ排除された人々に対し、その正当性を検証する「ヤジと民主主義」。揺れ動く時代の中で「守るべきもの」を考える3本。	自然との共生 短編 ⑨ 12.9(水) 12:20-  「多摩川の野良猫写真家」 監督＝長谷夏帆／2020 年／11 分 「私たちの山」 監督＝橋天寿／2020 年／21 分 「THE LIMIT」 監督＝今津秀邦／2018 年／20 分 「セーブ・ザ・リーフ〜行動するとき〜」 監督＝島崎實圭也／2020 年／50 分 多摩川の河川敷で、捨てられた野良猫の実態を伝えるカメラマン・小西修に密着した『多摩川の野良猫写真家』。三重県と北海道で今なお息づく猟師の生活を民俗学的に考察した「私たちの山」。観光開発が進む知床で、ヒグマと人間の生活境界線が近づく危機を描く『THE LIMIT』。サンゴの白化による死滅の危機を食い止めるべく行動する人々を描いた「セーブ・ザ・リーフ〜行動するとき〜」。人間にとって、自然と共生することは何か？
長編 ④ 12.7(月) 16:00-  監督＝藤本 純矢／2019 年／118 分	石垣島の基地問題 短編 ② 12.5(土) 16:20-  「ウーマンラッシュアワー村本大輔がアメリカに行くまで」ドキュメンタリー vol.10 赤ちゃんになりたい / vol.11 嫌われることは無駄じゃない! 監督＝日向史有／2020 年／24 分 「沖縄と本土 一緒に闘う」 監督＝湯本雅典／2020 年／60 分 辺野古の米軍基地移設問題の陰で着々と進む、南西諸島への自衛隊基地建設。渦中にある石垣島でトークライブを開催し、戦争への不安を覚える地元の若者たちと対峙するウーマンラッシュアワー村本大輔の活動を追った2本と、石垣島・平得大保への自衛隊ミサイル基地建設を問う住民投票とその後の参院選の動きを中心に、沖縄だけでなく、秋田県など本土でも“軍事要塞化”が進む状況を独力で取材し続ける湯本監督の最新作を上映。	カメラは踊る 短編 ⑩ 12.9(水) 16:40-  「時と場の彫刻」 監督＝歌川達人／2020 年／8 分 「メランコリア」 監督＝岩名雅記／2020 年／5 分 「大野一雄三部作 光への四つの道」 監督＝ウィルジーニ・マーシャ／2020 年／69 分 プノンペンを拠点に活動するカンボジア系アメリカ人ダンサー、ブラムソダム・オックに歌川達人が向き合う「時と場の彫刻」。フランス在住の舞踏家・映画作家・岩名雅記が長年撮りためた素材を用い、ドキュメンタリーとフィクションの「あわい」に迫る『メランコリア』。さらにはヨナス・メカス追悼として、映像作家・ダンサーのV・マーシャが100歳の大野一雄と踊り、本人とさらにメカスらが撮影した奇跡的作品を上映。
きりむすぶ 長編 ⑤ 12.8(火) 14:00-  監督＝花房慎也／2020 年／104 分	原子力と人間 短編 ③ 12.6(日) 10:00-  「被爆死した米兵を巡って」 監督＝谷井健吾／2020 年／26 分 「我が友・原子力-放射能の世紀」 監督＝渡辺謙一／2020 年／57 分 原子力を“放射能により人体に有害な影響を及ぼすもの”として、被害の実相に切り込んだ2作。『被爆死した米兵を巡って』では、被爆当事者の調査でその存在が明らかになった、原爆で犠牲となった捕虜米兵の物語を追う。劇場初公開の「我が友・原子力」は、『天皇と軍隊』の渡辺監督が、戦後、平和利用と被爆被害者の狭間で揺れてきた原子力の歴史を“放射能”を切り口に再構成し、人類にとって「核とは何か」を改めて問いかける。	文化映画 レポリュリション 短編 ⑪ 12.10(木) 14:30-  「その先に、火を灯して」 監督＝上高得寛／2020 年／34 分 「剣術 La Voix Du Sabre」 監督＝ジェレミー・マルセラン／2020 年／60 分 古来より日本に伝わる祭事や武術を、これまでとは異なる視点でとらえた2作。『その先に、火を灯して』は、愛知県西尾市で行われる「三河一色大提灯祭り」の“変化”にカメラを向ける。伝統を守りつつ、祭を未来に持続させるためにできることは？『剣術 La Voix Du Sabre』は、フランス人監督が剣道を描いたユニークな作品。ローカルな文脈にとらわれることなく記録された剣の道の映像は、日本人が気付かない面白さに出会えるかも？
なれのはて 長編 ⑥ 12.8(火) 16:00-  監督＝桑田剛／2020 年／126 分	当事者たちの告白 短編 ④ 12.6(日) 12:00-  「あなたの瞳に話せたら」 監督＝佐藤そのみ／2020 年／26 分 「I Am Here—私たちはともに生きている—」 監督＝浅沼裕也／2020 年／60 分 ドキュメンタリーに特有の「当事者だから撮れる映像」。その意味と力が考えられるプログラム。石巻市立大川小学校の津波被害で妹を亡くした監督が、生き残った同級生と共に「手紙」を用いてメッセージを伝える『あなたの瞳に話せたら』と、性同一性障害者が性別を変更できる「GID 特例法」の施行後も、その要件を満たせずに苦しむ当事者の想いを、監督自身の体験を交えて描いた「I Am Here—私たちはともに生きている—」の2本を上映。	香港クライシス 特別 12.5(土) 14:00-  「中大防衛戦」 監督＝カン・シンカイ／2020 年／86 分 「STAND WITH HK」 監督＝堀潤／2020 年／25 分 激動の香港情勢を、香港と日本の独立系ジャーナリストがそれぞれとらえた2作を特別に上映。『中大防衛戦』は、2019年11月12日に名門・中文大学で起きた警察の不法侵入事件の一部始終を、地元の映像作家が記録した作品。催涙弾が乱れ飛ぶ中、キャンパスに電撃し応戦する学生たちの迫力ある姿を描く。堀潤の新作『STAND WITH HK』は、民主化デモの最前線にカメラを向け、警察の弾圧に向き合う香港の若者たち一人一人の声に丁寧に耳を傾ける。